

知恵の連鎖で飛躍する京都産業

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

自公政権による経済政策によって日本経済が落ち着きを取り戻しつつあるなか、新しい年を迎えました。成長戦略が実行に移され、経済の好循環が生まれることによって、景気の明るさが地域経済や中小企業にまで行き届く1年になることを期待しております。

さて、京都の行政、産業、大学、文化芸術、メディアのトップが「30年後の京都のありたい姿」について3年間にわたって議論を重ね、昨年5月に最終提言書「京都ビジョン2040」を発表しました。日本文化の中核都市として、知や精神の交流、人と人との交流、文化や産業の大交流を作り出す「世界交流首都・京都」を未来像としています。これまで絶えず革新を繰り返すことで新たな伝統を創造してきたように、京都が時代の変化の先頭に立って、知恵と技術を駆使して幅広い分野で価値を創造し続けることが必要です。

本所が進めてきた知恵ビジネスの取り組みも、この潮流の中に位置づけており、昨年11月からの会頭3期目のスタートにあわせ、今後3年間の指針となる「ニュー京商ビジョン サードステージ」を策定し、3つの目指したい姿を掲げました。

「知恵の連鎖で飛躍する京都産業」

本所の知恵ビジネスの取り組みは、普及から育成、発展、誘発とステップを進めており、広がりを実感しています。サードステージでは、産学公の連携のもとで、知恵ビジネスの種をまき、じっくり

育てて、知恵ビジネスの実を収穫する「知恵産業の森」の実現を目指しています。知恵ビジネスの育成施策を拡充、加速させるとともに、オール京都での支援環境を整備し、数多くの事業者が知恵ビジネスやグローバル市場への挑戦など新たな事業創造や顧客創造につながる施策やプロジェクトを推進することにより、次々と自律的に知恵ビジネスが生まれ出されていく「知恵の連鎖」をコンセプトに施策を展開してまいります。

「人が集い交流し、新たな価値を生むまち」

クリエイティブな才能が発揮できる環境を整えつつ、新たな観光需要の取り込みや京都MICEの推進を通じて、京都のブランド価値、都市格を向上させることにより、世界中の人や知恵、情報の一大交流都市を目指します。

「会員とともに京都の活力を生み出す京商」

昨年、おかげさまで1万2千会員を回復しましたが、会員の皆さんの満足度を高め、属性やニーズにきめ細かに応えることが大切です。会員同士の交流・ネットワーク作りや、国内外への情報発信支援、会員の皆さんの声を地域行政や国に届けるための提言・要望活動の強化などに取り組めます。

本年が皆さまにとって、実りある年となることを祈念いたしますとともに、本所への一層の参画をお願い申し上げ、新年のあいさつといたします。

以 上
京都商工会議所
会頭 立石義雄